

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌
Vol.06



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

「不易流行」

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

館長 坂野 浩一



2019年度は、第2期目の指定管理者(2019年4月～2024年3月迄 5年間)が新たにスタートした年でした(第1期指定管理者 2014年4月～2019年3月)。

5月には新しい元号「令和」となり、10月のラグビー・ワールドカップでは“**One Team**”が流行語になるほど日本中が一体感に包まれました。

私たちも、初めてご来館されるお客様も含めて、ホームページを分かり易いものに更新し、入口に「館内イベントボード」を設置したり、駐車場には「誘導サイン」を増設する等、情報伝達やご案内を見直しました。

また、当館の特長である「お魚トレーナーになろう! 餌付け体験」、年4回実施の「特別企画展」、「ものづくりワークショップ」、ふれあいワゴンなどの「解説イベント」も充実させ、ご利用の皆様の多くの“笑顔”をいただきました。

相模原市ならびに市内の各団体や近隣の方々のご協力もいただき、年間20万人以上の来館者数・お客様満足度も高い評価をいただきました。

松尾芭蕉の去来抄に「不易流行」(“ずっと変わらないこと”と“時代とともに変わること”)の言葉があります。私たちも「不易流行」の気持ちを持って、新しい挑戦をしたいと考えております。

2020年度も“お客様がもっと笑顔になれる”施設を目指して、新しい展示水槽の設置やイベントに、スタッフ一同チャレンジしていきます。

Contents

はじめに	2
新たなスタート	3
相模原市観光協会との取り組み	4
地域団体とのイベント	5
地域連携の活動	6
ミニ企画展示	8
特別企画展	
◇ようこそクラゲ	10
◇ふれあい夏まつり	12
◇カエル	14
◇釣りはじめ(応用編)	16
マンスリー水槽	18
ミニトーク水槽	19
海の生き物水槽／	
小川の実験観察テーブル／その他	20
ふれあい田んぼ探検隊	21
ものづくりワークショップ	22
イベント	23
指定管理者紹介ページ	23



新たなスタート

2019年は「平成」から「令和」へと新元号となり、新しい時代の幕開けの年となりました。そして当社(株江ノ島マリンコーポレーション)も2014年のリニューアルオープン時に引き続き、2019年4月より指定管理者として新たに5年間の施設運営をスタートさせた年となりました。

当社にとって2024年3月31日までの5年間は単なる継続ではなく、2014年からの5年間で得た経験を活かした新たなスタートとして、今まで以上にお客様に笑顔と感動をあたえられる質の高いサービスを提供していきたいと思います。

その第一弾として、2020年5月に当館人ゾーンに新たに水上散歩水槽を新設しました。水上散歩水槽は埋め込み式の水槽となっており、上から生き物を観察出来る水槽です。上から観察する水槽は珍しいと思いますが、横から観た時とは違った新たな発見をして頂くと共に、小さなお子様にも観やすく、喜んで頂いています。

今後も「相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら」の価値を最大限に高めていけるようスタッフ一同励んでまいります。

【施設概要】

施設名	相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら
特色	相模川の生き物をテーマとした淡水魚水族館
指定管理者	株式会社江ノ島マリンコーポレーション (新江ノ島水族館(神奈川県)、アクア・トト ぎふ(岐阜県)運営)
所在地	神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
敷地面積	15,722㎡
総飼育水量	約100トン





科学館まつり

水郷田名観光協会

当館の屋外広場にて、水郷田名観光協会にご協力頂き模擬店を出店した「科学館まつり」を実施しました。ミニSL乗車体験なども実施しました。



麻溝公園ふれあい動物広場 (公益財団法人ハーモニセンター)

当館屋外広場にてポニーの乗馬体験、ミニ馬車の乗車体験を実施致しました(11/16)。ふれあい動物広場さんからは「クロちゃん」、「アオちゃん」の2頭が来てくれて、小さなお子様も喜んで乗馬・乗車していました。この体験を通じて、生き物に興味を持って頂けたのではないかと思います。



イルミネーション

一般社団法人 相模原市観光協会 代表理事 加藤 明

相模原市観光協会と相模川ふれあい科学館とのコラボレーションで行っている「アクアリウムさがみはらイルミネーション」。平成26年から始まったこの事業は、今やすっかり水郷田名を彩る冬の風物詩として定着しました。

科学館正面建物や橋の欄干にもイルミネーションを設置、市民から寄贈された高さ10mのモミの木をはじめ周りの木々にも装飾を施し、冬の夜空を美しく彩りました。

今回は、台風19号の影響で点灯式は行われず、恒例の花火打ち上げは実施されませんでしたが、約2万球のイルミネーションは神秘的な青色と黄金色で闇夜を照らし、幻想的な世界を創り出しました。水面に映える「逆さイルミ」は必見。イルミネーションは、1月5日まで水郷田名の冬の夜を美しく灯し続けました。



帝京科学大学 ふれあい動物縁日

帝京科学大学の学生さんが主体となり「ふれあい動物縁日」を実施しました(11/2)。館内ではクイズラリーやザリガニなどの解説、屋外広場ではモルモットやカイコとのふれあい、カイコの繭を利用した繭クラフト、動物カルタ、カマキリとミズカマキリの比較、動物宝探し、鮎のペーパークラフトなどお子様が楽しめるイベントを開催しました。



稚鮎の放流

相模川にて田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たちと一緒に「稚鮎の放流」(5/20)を行いました。相模川を元気に泳いでいくアユを笑顔で見送りました。



花苗の植え付け

当館屋外にある魚型の花壇で友愛保育園の園児たちと花の苗植え体験を実施しました。春にはサルビアとニチニチソウ、秋にはパンジーとビオラの苗を植えました。自分たちが植えた花の名前を繰り返し唱えながら一所懸命覚えていました。



地域連携

近隣 幼稚園・保育園 ・小学校との取り組み



田んぼ体験

当館屋外にある「ふれあい田んぼ」にて田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たちと田植えや稲刈りなどを通じて、お米作りの大変さ、食の大切さを学びました。



総合学習の時間

相模原市立田名小学校3年生の生徒と一緒に相模川について学習をしました。当館の見学や、相模川での生き物観察を通じて、各々が関心をもった事をテーマにして、それについて調べて発表を行いました。植物や生き物、環境、歴史など、自分たちに身近な相模川について知る機会となりました。



他団体・他機関との連携

ミニ企画展示 「もっと知りたい相模の自然」

波多野 順

「もっと知りたい相模の自然」と題した企画展示も、3回目を迎えました。常設の展示水槽だけでは伝えきれない生き物や情報などを、調査や研究・保全に携わる外部機関との連携を通して、ご紹介しています。身近に残る自然に目を向け、その変化を感じ取れるような展示に出来るよう、テーマや内容を工夫して、各機関にご協力を頂いています。時にはスタッフも調査に同行して、実際の自然の観察や生き物の採集なども行いました。展示の裏側では、各機関の方々の日々の努力や研究熱意なども感じるとともに、地道に調査・研究を継続していくことで、自然の変化や状況が数値化されていく様子を学びました。普段、私たちの目にする情報や内容には、非常に多くの方々の労力と努力があり、届けられていくのだと思います。ご協力を頂いている皆さまには、この場をお借りして、御礼申し上げます。

キベリマメゲンゴロウ

第9回
企画

み一つけた！相模川の水生昆虫

共同機関：東海大学 教養学部 北野研究室

期 間：2019/4/12～7/29

展示生物：キベリマメゲンゴロウ、

ツマキレオナガミズスマシ、

クロサワツブミズムシ、

イトアメンボ、ナベブタムシ、コチビミズムシ

概要 相模川およびその流域には、神奈川県他の地域にはみられなかったり、種によっては全国的にも珍しかったりする水生昆虫が生息しています。今回は、その中でも6種を取り上げてご紹介しました。いずれも小さな川に住む虫たちですが、その生態や面白い特徴などを持っており、相模川の自然の豊かさを感じて頂けたのではないのでしょうか。

第11回
企画

当麻山公園周辺のトンボ

共同機関：光明学園相模原高等学校 理科研究部

期 間：2019/10/9～2020/1/20

展示生物：オニヤンマ、オナガサナエ、ニホンカワトンボ、アキアカネなど

概要 当麻山公園は、湧水が沸き、小川が流れ、市内でも数少なくなっている自然豊かな場所になります。この公園では様々な生き物が観察できますが、幼虫期を水域で、成虫期を陸域で生息するトンボ類を多く観察することが出来ます。今回は、公園で観察できる代表的なトンボ類をご紹介しました。



第10回
企画

相模川水系の外来種 ～失われる生態系～

共同機関：神奈川県水産技術センター内水面試験場

期 間：2019/7/30～10/6

展示生物：ドンコ、カムルチー

概要 相模川などの元々あった自然の中に、国外や日本の別の場所から持ち込まれた生き物たちが近年増えており、大きな問題になっています。今回は、相模川水系での外来魚駆除調査に同行し、その現状を調査しました。実際に採集されたカムルチーやドンコなどを展示し、駆除の様子やその現状などをご紹介しました。



第12回
企画

相模川を舞うタカの仲間たち

共同機関：相模原市立博物館

期 間：2020/1/20～4/15

展示生物：オオタカ、ツミ

概要 相模川の上空を舞うタカの仲間というトビが思い浮かびますが、実はオオタカやノスリ、ツミなど他のタカの仲間たちの姿も観察されています。特に冬の時期には、山で暮らしているオオタカなどが広い河原で上空を舞っている様子が観察できます。今回は、オオタカとツミについてご紹介しました。



2019 特別企画展

－概要－

当館では特別企画展を年4回開催しています。特別企画展では、企画者が決めたテーマのもとに色々な生き物を展示しています。常設ではなかなか展示が難しい生き物も、企画者が工夫を凝らし間近で観る事が出来るようにしたり、小さなお子様にも興味を持って頂けるようにハンズオンコーナーやフォトコーナーなども設置したりしています。今では特別企画展を目当てにご来館される方も多くいらっしゃいます。

【2019年度の企画展】

ようこそクラゲ

～あなたを癒しの世界へ～

(P10, P11)

ふれあい夏まつり

～帰ってきたカピバラ～

(P12, P13)

カエル

～イロイロなカエルたち～

(P14, P15)

釣りはじめ(応用編)

～もっと知りたい釣りのこと～

(P16, P17)



特別企画展の詳細は次のページをご覧ください。

調査・研究

調 査

相模川ふれあい科学館では、生き物の展示や飼育だけではなく、調査や研究などを通して、自然環境の把握や生態解明、飼育技術開発にも取り組んでいます。

ホトケドジョウ生息調査 2019.6/25・12/8
(生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会協力)

相模川水系外来魚駆除調査 2019.7/11・7/19
(神奈川県水産技術センター内水面試験場協力)

小田原市メダカ生息調査および移設作業
2019.6/20・9/11・9/18

(小田原市、酒匂川水系のメダカと生息地を守る会協力)

研究 発表

東京大学大気海洋研究所 共同利用研究集会

(口頭発表)

2019.12/16・17

発表演題：「相模川を学ぶ・相模川から学ぶ
－1年間の総合学習の取り組み－」

発 表 者：○波多野順・押田聖彦



アトランティックシーネットル

春季特別企画展

ようこそ クラゲ

～あなたを癒しの世界へ～

世界で約3,000種 神秘的な生き物クラゲ。

皆さんが一番好きな生き物は何ですか？

世界には多様な生き物が暮らしており、その姿や形、生態はそれぞれ違います。また、私たちが生き物を見て「好き！」と思うポイントも一人ひとり違うのではないのでしょうか。私が一番好きな生き物「クラゲ」は、最近では水族館の人気者ですが、「気持ち悪い！毒針を持って刺してくる！よく分からない生き物！」と悪いイメージを持っている方も多いと思います。ですが、クラゲについてもっと良く知ってもらえば、今までのイメージとは違う一面を見つけてもらえるはず！きっとクラゲの好きなのところも見つかるはず！そんなクラゲへの愛を込めて、この企画展を行いました。



企画者
コメント
Comment

展示飼育部

黒川 恵美

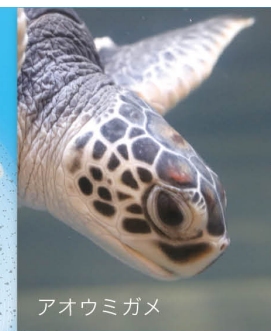


透き通った体、フリルのような口腕、脳や心臓を持っておらず、水の流れに身を任せてシンプルに生きる「クラゲ」。私が水族館で働きたいと思ったきっかけは、ある水族館の水槽で泳ぐ、クラゲの姿に感動したことが始まりです。お客様にクラゲの魅力を最大限伝えられるよう、大きなエチゼンクラゲのバルーン模型やクラゲの生態が分かるクイズやハンズオン展示を作ったり、山梨県富士湧水の里水族館から希少なマミズクラゲをお借りして、多様な種類のクラゲを展示しました。成体になったクラゲはとてもデリケートです。クラゲ展示で長い歴史を持つ新江ノ島水族館から、多くのクラゲの提供とアドバイスをいただきつつ、工夫をこらして展示していました。

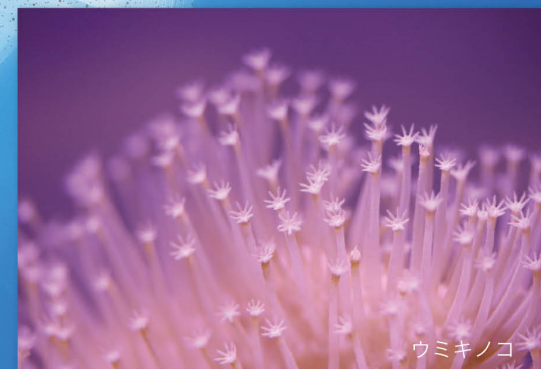
準備～企画展最終日までの日々は、先輩方に沢山迷惑をかけ、クラゲは健康状態を保ててあげられず溶けていき、自分の無力さに「私もクラゲのように溶けてしまおうかな…」と目から海水が溢れる毎日でした。ですが、企画展にいらっしゃったお客様が、かつての自分のようにクラゲに見とれている姿を見て、あの時溶けてしまわなくてよかったな、と思いました。

このクラゲ展にご協力いただいた全ての方に心から感謝を申し上げます。

アオウミガメ



ウミキノコ



ミズクラゲ



マミズクラゲ



タコクラゲ



カブトクラゲ



ハナガサクラゲ



オワンクラゲ



夏季特別企画展

ふれあい
夏まつり

～帰ってきたカピバラ～



みなさんは最近 どんな生き物にふれましたか？

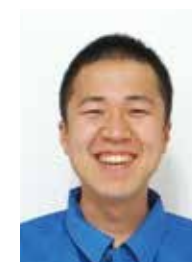
近年は都市化が進んで暮らしが便利になる一方、
環境が整備されることで身近な自然が減りつつあります。
そのため、川で魚を捕まえたり、草むらで虫を追いかけたりといった、
自然の中での生き物とのふれあいが少なくなっているのではないのでしょうか。
ふれあい夏まつりでは、生き物をただ「見る」だけではなく、
実際に「ふれて」みてわかることを伝えたいと考えました。
「さわる」や「ふれあう」ことはその生き物を知り、感じ、記憶することにつながります。
経験を通して、生き物たちの生態や現状にまで興味を抱いていただけたならうれしく思います。



ハナカマキリ



アルダブラゾウガメ



展示飼育部

竹本 淳史

企画者
コメント
Comment

またまた夏がやってくる。
第3弾の「ふれあい夏まつり」は何で攻めるか。春先にもはや恒例となったこの議論が交わされました。
私「去年のカワウソの展示は大変だったな～（心の声）」
私「次の夏まつりは誰が担当するのかな～、なった人は大変だろうな～（心の声）」
上司「次のふれあい夏まつりは何がいいと思う？」
一同「うーん・・・」
私「そういえば来年はねずみ年らしいですね」
上司「それだ！じゃあ世界最大のネズミの仲間“カピバラ”で行こう！じゃあ、よろしく！！」
私「・・・！！！！？」
だいたいこのような流れで、3年連続ふれあい夏まつり担当になってしまいました。
大変でしたが、とてもかわいらしい子供のいるカピバラ親子を展示することが出来たり、これまでと趣向を変えた展示スペースのレイアウトに挑戦してみたりと、楽しみながら作り上げることが出来ました。
結果としてたくさんのお客さんにも来ていただき、とてもうれしかったです。
さて、来年は誰が担当するのかな～



メキシカンレッドニー

ふれあった生き物たち

- 🐾 カピバラ
- 🐾 アルダブラゾウガメ
- 🐾 ケヅメリクガメ
- 🐾 ヘラクレスオオカブト
- 🐾 コーカサスオオカブト
- 🐾 ギラファノコギリクワガタ
- 🐾 ディディエールシカクワガタ
- 🐾 マダガスカルオオゴキブリ
- 🐾 アフリカオオヤスデ

ヘラクレスオオカブト



アフリカオオヤスデ



秋季特別企画展

カエル展
～イロイロなカエルたち～成長すると陸でくらするように
体に変化(＝変態)します

川や水田といった水環境の豊富な日本では、カエルは昔から身近な存在として親しまれてきました。水辺の生き物の代表として知られるカエルですが、世界には数千種ものカエルが知られており、その生息場所や生態は多種多様なものです。“カエル展”では、身近なところから世界に至るまで、様々なところに生息するカエルをとりあげ、ちょっと変わった生態などをご紹介します。



フライシュマンアマガエルモドキ



モウドクフキヤガエル



ミツヅノコノハガエル



マルメタビオカガエル



ベトナムコケガエル

展示飼育部
亀ヶ谷千尋企画者
コメント
Comment

カエル、というとどんなイメージがありますか？川や水田の多い日本では、カエルは昔から身近な生き物として親しまれてきました。水辺のイメージの強いカエルですが、世界には半砂漠地帯から熱帯地域、地中から樹上まで様々なところに生息しています。そして、棲んでいるところにあわせて見た目も違ってきます。カエルの魅力の一つがその見た目だと思います。枯れ葉そっくりのものもいれば、色鮮やかでラメが入ったようにキラキラしているものもあります。厳しい自然を生きぬくための進化の結果だとは思いますが、多種多様な姿かたちには驚かされます。また、見た目だけでなく、暮らしぶりも面白いものがたくさんいます。自分の卵を子どもの餌として利用したり、においを利用して別の生き物になりすましたり、知れば知るほどカエルのとりこになります。今回のカエル展でご紹介しきれなかった、面白いカエルがまだまだたくさんいます。またいつか、魅力あふれるカエルたちをご紹介しますと思います。



マルメタビオカガエル



テツカミネコメガエル



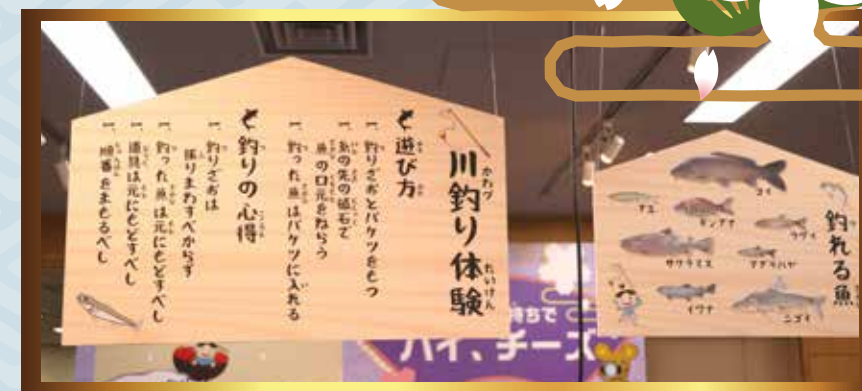
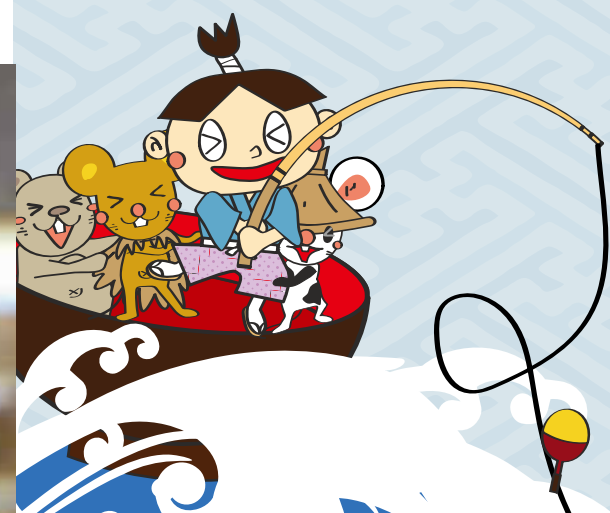
冬季特別企画展

釣りはじめ
(応用編)

～もっと知りたい釣りのこと～

釣りは、人と魚の知恵比べ

釣りは、古くより人々に楽しまれている趣味の一つであり、魚を捕る手段でもありました。そのため人々は、より多く、より大きい魚を釣れるよう、色々な工夫や努力をしてきました。魚を釣り上げるには、その習性を理解し、行動を把握しなければなりません。釣りをすることは、魚を学ぶことでもあるのです。今回の特別企画展では、釣りを通して、魚や生き物を学び、その面白さを体感して頂くことを目指し、企画しました。



アイゴ



シリヤケイカ



展示飼育部

波多野 順

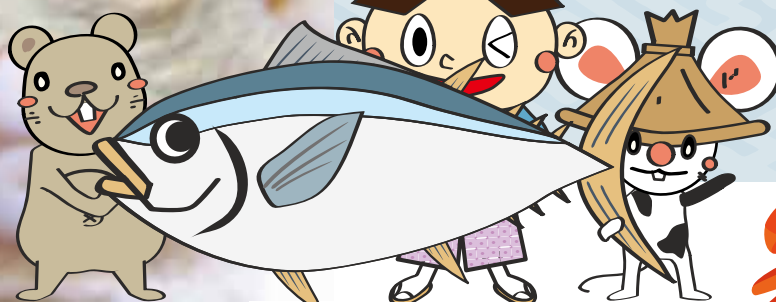
企画者
コメント
Comment

昨年度に実施しました「釣りはじめ」では、釣りの基本的な内容を中心にご紹介したところ、大変多くの方々にご来館頂くことが出来ました。そこで今回は、もう少し深く釣りについて知って頂こうと、応用編として再び「釣りはじめ」を企画しました。今回の内容では、釣りをする上で知っていて欲

しい知識として、毒を持つ魚や魚の匂、また餌となる生き物などについて解説しました。また魚以外にも釣ることの出来る生き物として、タコとイカをご紹介しました。イカ釣りについては企業のご協力を頂き、イカ釣り道具の要である餌木やデンヤ、また実際に釣りをしている動画をお借りして展示させて頂きました。釣りの映像では、海中でイカが餌木を追いかけて捕らえる様子など貴重なシーンもご提供頂きました。その他にも大物釣り体験として、竿がしなる様子を体験出来るコーナーなどもご用意し、より釣りを体感出来るよう工夫をしました。この企画展を通して、釣りに魚に、そして川や海にも興味を持って頂けるきっかけになればと思っています。



クサフグ



マンスリー水槽

福をよぶ魚!?



スジモヨウフグ

1月

フグは一部の地域では「フク」ともよばれ、福とかけて縁起がよい魚とされています。新年最初のマンスリー水槽では、白と茶色の縞模様が美しいスジモヨウフグをご紹介します。

2月22日は何の日でしょう?



コリドラスの仲間

2月

2月22日は「猫の日」です。猫のように口ひげをもち、キャットフィッシュとも呼ばれるコリドラスの仲間を10種類展示しました。

平成最後の卒業式



ホウボウ、アヤマエビス

3月

2019年3月には、平成最後の卒業式が行われました。そこで、お祝いの紅白柄の魚を卒業式の雰囲気再現したレイアウトとともに展示しました。

花びら ひらひら



ハタタデハゼ

4月

ハゼの仲間の多くは水底で生活しますが、ハタタデハゼは水中をホバリングするように泳ぎます。そんなハタタデハゼを、花咲く春の風に舞う花びらに見立てて、ご紹介しました。

色とりどりのコイ



コイ

5月

相模川では、こどもの日に合わせて多くのこいのぼりが掲げられます。そこで、様々な品種のコイと在来のコイを水中でなびくこいのぼりとともに、ご紹介しました。

雨の日は元気



ミズマイマイ

6月

雨の日でも元気な生き物としてカタツムリ(陸生貝類)を展示し、雨の日の日本庭園を再現しました。

海開きに水中観察



ソラスズメダイ、アケボノチョウチョウウオ、イシヨウジ

7月

海で水中観察をしている気分が味わえるように、シュノーケルマスクのおもちゃを使って写真撮影もできるような展示にしました。

夏の金魚

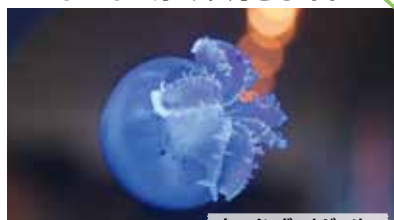


キンギョ

8月

夏祭りの季節に合わせて、キンギョを展示し、夏祭りの賑やかな様子と水辺の涼やかな様子を演出しました。

ぼこぼこ泳ぐお月さま!?



キャノンボールゼリー

9月

中秋の名月をイメージし、水槽に丸い形をしたクラゲを泳がせて、月に見立てました。

ハロウィンといえば?



トランスルーセントグラスキャット、アフリカンランプアイ

10月

ハロウィンといえばカボチャやガイコツを思い浮かべる方多いのではないのでしょうか?そこで、骨格が透けて見える魚と暗闇で目が光って見える魚を展示しました。

おなかいっぱい!ハチェットフィッシュ



マーブルハチェット、シルバーハチェット、マーサハチェット

11月

秋といえば食欲の秋!まるで、お腹が一杯になったような体をしたハチェットフィッシュの仲間を展示しました。

クリスマスの彩り



スミレナガハナダイ

12月

クリスマスシーズンになると街が装飾で賑やかになります。色鮮やかなスミレナガハナダイがクリスマスのリースを通り抜けた、家の中に隠れたりする様子を観察できました。

ミニトク水槽

01
的の中心を狙え!
テッポウウオ!!

生物種: テッポウウオ

期間: 2018.12/26 ~ 2019.4/8



テッポウウオは、口から水を飛ばして虫などを撃ち落とすことで知られています。この水鉄砲の秘密は口の中の構造にあります。実験では、テッポウウオが水鉄砲を撃って餌を落とす様子を観察しました。

02
歩く魚!?ホウボウ

生物種: ホウボウ

期間: 2019.4/9 ~ 6/30



ホウボウは胸ビレの一部が脚のように変化しています。この「脚」には味を感じる味蕾があり、脚をつかって海底を歩くように移動して餌を探します。実験では実際に餌を探す様子を観察しました。

03
くつつくコバン!?
コバンザメ

生物種: コバンザメ、クロコバン

期間: 2019.7/2 ~ 9/29



コバンザメは頭にある小判のような吸盤を使って、他の生き物にくっきます。この吸盤は背ビレの一部が変化したものです。コバンザメがくっついた、離れた様子をご紹介します。

04
発電する魚
デンキウナギ

生物種: デンキウナギ

期間: 2019.10/1 ~ 12/25



デンキウナギは生き物の中で一番強い電気を出すことができます。発電実験では、電気を光に変換する装置を使って、デンキウナギが電気を出す様子を観察しました。

海の生き物水槽



2019年の海の生き物水槽では、ハナギンチャクの仲間、カラッパの仲間、ミナミトビハゼを展示しました。

花が咲いたように触手を広げるハナギンチャクは、とてもきれいです。毒があるのでさわると危険です。カラッパはカニの仲間ですが、一般的なカニよりも形が丸っこくて愛嬌があります。展示しているあいだに、ふれあいワゴンに登場することもありました。ミナミトビハゼは、魚の仲間ですがあまり水の中にいません。皮膚を通して呼吸ができるため、長い時間水から出ても大丈夫なのです。展示していても水から出て休んでいる様子が観察できました。



小川の実験観察テーブル



スッポンとカメ、ちがいはどこ？

生物種：ニホンスッポン、ニホンイシガメ
スッポンはカメの仲間ですが、甲羅がやわらかく見た目もちょっと変わっています。スッポンは他のカメとどこが違うのか、わかりやすくご紹介しました。
期間：2019.4/15～7/7



まるで忍者!? 体の色かわるアマガエル

生物種：ニホンアマガエル
私たちに一番身近なカエルであるニホンアマガエル。アマガエルというと“緑色”というイメージがありますが、実は周りの環境によって体の色を変化させることができます。
期間：2019.7/9～10/20



カニのあしは何本あるかな？

生物種：アカテガニ、クロベンケイガニ
Q.カニの脚は何本あるでしょうか？
A.ハサミをいれると10本あります！カニは十脚目の仲間です。カニの体のつくりがどんな風になっているのか、間近で観察していただきました。
期間：2019.10/22～2020.1/19

その他トピックス

「令和をつなぐ子供たち」

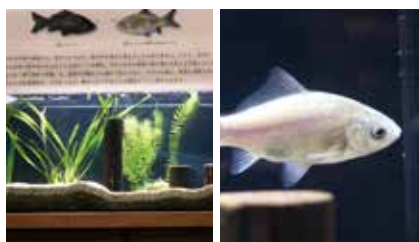
生物種：ミヤコタナゴ、ホトケドジョウ、ミナメダカ



神奈川県絶滅危惧種である3種類の魚類を繁殖し、その稚魚の展示を行いました。あまり目にすることのない稚魚の姿をご紹介しました。
期間：2019.5/1～6/2

「透明な鱗をもつ魚」

生物種：ギンブナの透明鱗型



神奈川県河川で採集された透明な鱗を持つギンブナを展示し、ご紹介しました。今回の個体は、更に体表も色素が少なく、体の内臓や血管が透けて見えている特徴がありました。
期間：2019.6/11～9/1

「ミヤコタナゴ人工産卵床装置の実験展示」

生物種：ミヤコタナゴ



タナゴ水槽のミヤコタナゴ展示部分において、人工産卵床装置を取り付け、公開実験を実施しました。ミヤコタナゴが、縄張り行動をする様子や産み付けられた卵をご紹介しました。
期間：2019.5/28～7/31

田植え 5月25日(土)

今年は、田んぼに土を新たに加え、畔を広げて、開墾し直したふれあい田んぼ。稲も初めて扱う品種「はるみ」に決定。みんな泥の感触を確かめたあとは、いよいよ田植えへ。なれない泥の中での作業でも一生懸命に苗を植えてくれました。



観察会 8月17日(土)

今年の6月は記録的な日照不足で、植えた苗の生長も中々進まず、心配をしていました。しかし稲もたくましいもので、7月に気温が上がってくるとぐんぐんと生長を始めました。観察会では、田んぼ周辺の生き物を採集して観察し、稲の一部では花が咲いている様子も見る事が出来ました。



稲刈り・稲架かけ

9月28日(土)

猛暑や台風などを耐え抜いて、立派に育った稲たち。いよいよ収穫の日がやってきました。慣れない鎌を手に少しずつ刈り取っていきます。父兄の皆さんにも手伝って頂いて、どんどんスピードが上がって、終盤には、すっかり鎌の扱いも上手になりました。刈った稲をわらでしばり、皆で天日に干しました。私たちスタッフも、なんとも嬉しいひと時です。



ふれあい田んぼ探検隊

展示飼育部 波多野 順

相模川ふれあい科学館には、「ふれあい田んぼ」と名付けられた棚田があります。科学館のある水郷田名地区は、古くは水田が広がる地域でもありましたが、現在は、ごく一部にしか水田は残っていません。当館では、リニューアルオープンから毎年、一般公募でふれあい田んぼ探検隊を募っています。今年も集まった小学生とともに約半年間、田植えから収穫まで、米作り体験を実施しました。



脱穀・風選

10月19日(土)

天日に干して乾燥させた稲から、足踏み式の脱穀機を使って籾を落とします。機械だけでは落ちなかった籾も、最後は丁寧に手で摘み取りました。次に風の力を利用して、籾を選別します。みんな機械のハンドルを回すのも楽しみながら交代で作業をしました。田植えをした2枚の田んぼから、今年は12kgの籾を収穫することが出来ました。

収穫祭 11月2日(土)

いよいよ待ちに待った収穫祭。収穫したお米を頂きます。初めに収穫した籾から殻を取るもみすり、ぬかを落とす精米体験を行いました。これがとても時間と根気のいる作業で、お米を食べる大変さを体験しました。収穫祭では、外国のお米や、違う品種のお米の食べ比べを実施しましたが、ふれあい田んぼのお米が一番人気でした。自分たちで収穫したお米をおにぎりにして頂き、皆で収穫を祝いました。とれたてのお米は本当に美味しく、子供たちもお代わりをして食べていました。お米を作る大変さも喜びも、そして食べる美味しさも経験して頂けたのではないのでしょうか。



ものづくり ワークショップ

今年からワークショップを担当することとなりました。みなさまと一緒にものづくりを楽しく作っていきたいです。2019年は過去に行ったワークショップの復刻が多い年でしたが、「これを作ってみたかったんだ!」と喜びのお声もいただく事ができました。作るのが得意な方や、そうでない方でも楽しんで参加していただけることはとても嬉しい限りです。「こんなのが作ってみたい、こんなものがあたらいいな」などのお声もどんどんいただけたら幸いです。当館のワークショップは、小さなお子様から大人の方までどなたでもご参加いただけますので、是非多目的室2に遊びに来てくださいね!ご参加お待ちしております。

体験学習担当 熊田 奈津子

ものづくりワークショップ一覧(2019年1月~12月)

空を泳げ!いきもの風づくり	冬休み~1月27日(日)の土日	有料
くるくるコマ	1月7日(月)~2月15日(金)の平日	無料
水辺のランタン	2月2日(土)~3月10日(日)の土日祝日	有料
ぼよんカード	2月19日(火)~3月22日(金)の平日	無料
たまごでフィッシュ	春休み~4月21日(日)の土日祝日	有料
ゆりんクラゲ	4月1日(月)~26日(金)の平日	無料
スタンプまつり	4月27日(土)~5月26日(日)の土日祝日	有料
おさかなメガホン	5月7日(火)~7月12日(金)の平日	無料
水辺のキーホルダー	6月1日(土)~7月7日(金)の土日祝日	有料
ボトルアクアリウム	7月13日(土)~9月1日(日)	有料
くるくるとんぼ	9月3日(火)~11月1日(金)の平日	無料
いきものマグネット	9月7日(土)~10月14日(月)の土日祝日	有料
ストーンアート	10月19日(土)~11月24日(日)の土日祝日	有料
おさかなサコッシュ	11月5日(火)~12月20日(金)の平日	無料
スノードームすいぞくかん	11月30日(土)~12月25日(水)の土日、冬休み	有料

相模川のともだち

月に一度のレアイベント!その月に飾っている写真の生き物を中心に、今まで紹介してきた生き物や各地で撮影した生き物について、写真家の伊藤さんからお話をさせていただきます。

相模川のともだち一覧(2019年1月~12月)

1月	カシラダカ	7月	クサガメ
2月	アオサギ	8月	キタキチョウ
3月	アズマヒキガエル	9月	ウシガエル
4月	モズ	10月	サワガニ
5月	モンカゲロウ	11月	アキアカネ
6月	ナガメ	12月	セイヨウミツバチ

イベント

当館ではシーズンを通して様々なイベントや出張水槽を実施しております。

<磯観察>

江の島にて磯観察を実施しました。子供たちは甲殻類や魚類などたくさんの生き物を採集することができ、熱心に観察していました。



<アユ食育>

アユについて見て!食べて!学ぼう!

当館近くにある割烹旅館、旭屋にてアユの串打ち・焼き体験を実施し、参加者全員で食べました。



<出張水槽>

出張水槽を実施しました。施設や特別企画展などのPRを行いました。



新任スタッフのご紹介



営業・管理部
体験学習担当
熊田 奈津子

ものづくりはもちろんドライブが好きです。行く先々で見つけた生き物を観察したり、ワークショップのアイデア探しをしています。



展示飼育部
山田 一輝

淡水の生き物が大好きです。知れば知るほど面白い生き物たちの魅力を、多くの人たちに伝えていけるように頑張ります。



施設管理部 部長
寺川 洋一

近隣に30年以上住んでいますが、リニューアル後の館内の展示やイベントが大きく変わりました。皆さんにおすすめです。

運営会社のご紹介

平成26年1月より、相模原市から指定管理業務を受託させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行ってまいります。

新江ノ島水族館



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、「わくわくドキドキ冒険水族館」をコンセプトにしています。

新江ノ島水族館
ENOSHIMA AQUARIUM
<http://www.enosui.com/>

世界淡水魚園水族館 アクア・トトギふ



日本や世界の淡水域に生息する生物をご紹介している「世界淡水魚園水族館 アクア・トトギふ」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。

世界淡水魚園水族館
アクア・トトギふ
<http://aquatotto.com/>

■アクセス Access



**電車
バス
ご利用** JR横浜線 相模原駅南口より 神奈川中央交通バス
「水郷田名」行き 「ふれあい科学館前」下車 徒歩0分

**車を
ご利用** 国道16号線 相模原駅入口 上溝バイパス 上溝 県道54号 相模川
国央道 相模原愛川IC 国道129号 上溝バイパス 県道54号 相模川
ふれあい科学館

■入館料金(税込)

区 分	個 人	年間パスポート	団体(20名以上)
大人(高校生以上)	390円	1,170円	310円
小人(小・中学生)	130円	390円	100円
65歳以上※	190円	570円	150円
幼児(小学校就学前)			
障害者と同伴者1名※	無料	無料	無料
ひとり親家族等※			

※65歳以上については、年齢証明できる各種証明書のご提示を求めることがあります。
※年間パスポート購入時に写真撮影します。

お得な年間パスポート

年間パスポートは3回分の料金です。
ワークショップの割引もあります。



- 開館時間** 9:30～16:30
イベント開催等により営業時間変更の場合あり
- 休 館 日** 月曜日(月曜日が祝日等の場合は開館)
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション
【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：平成26年3月10日 登録の有効期限の末日：令和6年3月9日 動物取扱責任者の氏名：竹本 淳史



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<https://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館

検索